

長島復興副大臣ぶら下がり記者会見録（復興推進委員会）
（平成27年11月11日（水）11:38～11:43 於）中央合同庁舎7号館）

1. 発言要旨

大臣が国会対応で不在ですので、私のほうからお話をさせていただきたいと思います。

本日の会議について、冒頭大臣から御挨拶をいただきました。そのことについては皆さんもお聞きをいただいたと思います。

会議では、まず大臣から問題提起のあった観光について、委員の方々から御意見をいただきました。内容の主なものは、村井知事からは、訪日外国人客数について東北は一人負けの状態にあり、東北各県が一致団結してもなかなか限界がある。国は、正確な情報の発信を強化することによって海外の風評の払拭に取り組んでほしい。オリンピック・パラリンピックやサミット等のきっかけを捉えて、特段の御配慮をお願いしたいという発言がありました。

また、内堀知事からは、大臣からの提案に同感である。海外では、以前のように福島に寄り添うとの印象が薄くなったと感じる。政府全体として海外に正確な情報発信ができるよう総力を挙げてほしいという意見をいただきました。

また、各委員からも同様の意見をいただきましたが、復興の段階でどう情報発信をするかという、少し懸念の発言をされる方も実はいらっしゃることは事実であります。

また、村井知事から、東北の災害の風化の防止、あるいは震災の教訓の共有という観点から、復興の進捗を国が主体となって国内外に発信をしていただけないか。また、サミットという絶好の機会を活用して復興庁としても前に出てきて、国内外に正確な情報を発信してほしいという意見がございました。それぞれの委員からそれぞれの立場で、このことについて御意見をいただきましたけれども、復興庁として、村井知事から御提案をいただいた、震災5年を契機とする情報発信の強化について、今後検討していくこととさせていただきたいと思います。

また、高木大臣から問題提起のあった観光振興について、委員の方からいただいた御意見も踏まえつつ、どうやっぱり東北の皆さんに外国旅行客の誘客数を回復するかと同時に、国内からの観光客をどう回復していくかについても真剣に連携をして検討してまいりたいと思います。復興庁として、引き続き復興の加速化に全力で取り組んでまいりますので、これからもぜひ御協力を賜りたいと思います。

今日は委員長も同席をいただいておりますので、何かあったら質問をしてください。

2. 質疑応答

（問）高木大臣から、最近いろいろ慶弔費問題ですとか、そういった問題についての謝罪ですとか、そういった一言というのは何かございましたでしょうか。

（答）それはございません。この場所は、多分そういう議論をする場所ではございません

ので、復興のことについて収集する議論をする場所でございますので、そういうことはございません。

(問) 情報発信の強化ということですが、これまでも随分その件については取り組んでこられたと思っておりますが、じゃ、次に何をするのかというのが具体的にイメージがあつたら、ちょっと教えていただきたいんですが。

(伊藤委員長) 多分1つは、今日のテーマにあつた観光ということだと思ふんですね。これは恐らく震災直後の時点では余り考えにくいテーマなんですけれども、長い目で見ると、この東北の地域の中でやっぱり非常に重要な産業になり得る話で、そういう意味では、来年の3月でちょうど5年経つわけですけれども、そういう時期を少し意識しながら先を考えていくことが重要だろうと。村井知事からお話があつたように、例えばサミットの時に仙台で財務大臣と中央銀行総裁の会議があるとか、あるいは、オリンピック・パラリンピックでサッカーをやるとか、いろいろなイベントがあるものですから、そういうときに非常に有効に加えるというようなことはできないだろうかということは、例えば情報発信の一つの現時点での可能性として議論されていると。

それ以外にも、風評被害の問題というのは常に常時あるわけですから、そこはきめ細やかに、いろいろなレベルで多分やるべきであると、あるいは、個々の委員の方、それぞれのお立場でお話しされたんですけれども、これは後ほど議事録が出たときに、そういう話はまた文書で出てくると思いますので。

(以 上)